

平成 30 年度

## 第 48 回「東京都子ども会育成研究協議会」

### 実施報告

## 『子ども会の原点は？』

～このままでいいの子ども会～

平成 30 年度、第 48 回東京都子ども会育成研究協議会は葛飾区立石「かつしかシンフォニーヒルズ」に於いて参加者 194 名（ジュニア・シニアリーダー含む）と全国子ども会連合会会長河本功様のご出席のもと盛大に開催されました。

協議会開催に先立ち、平成 29 年度の優良子ども会並びに個人表彰がおり行われ、子ども会二団体、ジュニアリーダー組織一団体、個人六人に表彰状と記念品が授与されました。



今回は、午前中従来の基調講演から特別講演に変更し、東京都主催の青少年応援プロジェクト@葛飾、東京都では、地域の中で、外国人や国際経験豊かな方々を通じて“多文化への理解を深める”と題して、講師に異文化コミュニケーター マリ・クリスティーン氏をお迎えして、異文化をテーマとしたグループディスカッションを体験しました。（写真撮影は不可の為掲載を差し控えています）

参加者は、大人とジュニア・シニアリーダーも交えて「遊び」「叱られた事」「好きな給食」と違いを発表しましたが「遊び」では、昔（自分たちで作る）と今（ゲーム機等）では時代を感じさせられました。「叱られた事」は今も昔も大体同じかな？「好きな給食」では随分と豊かになっています。違いを認め受け入れられる人となって、来る 2020 年東京オリンピックでは多くの外国人と接して欲しいと締めくくられました。

午後の部会では、各々の講師の先生からワークショップを実践し、これからの子供会は「情報発信」が大切であると、育成者は、地域子どもたちに接するためには、発達課題を念頭に各年代に応じた体験を通して身につけておかなければならない指針が示され、子ども会活動に於いては直接体験を取り入れた活動を展開できるよう指導して欲しいとお話しされました。



また、リーダー部会に於いては、ゲームそのものだけでなく、コミュニケーションワーク（ホスピタルトレーニング）やゲームの展開と流れ、指導のポイント等、バラエティなゲームの数々を教わり最後に、ゲームが主たるものではなく、リーダーは人間性が大切であると結ばれておりました。

最後に参加者による情報交換会を行い、各地区の活動に役立つ貴重なお話を持ち帰る事となりました。